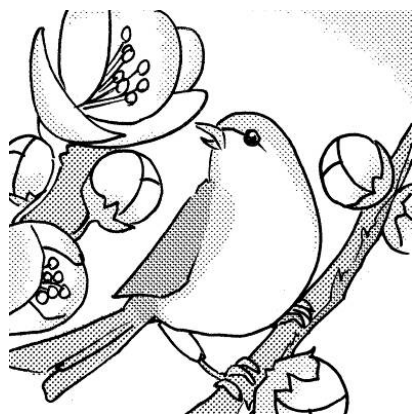


物事はスタートが大切です。例えば、職場においては朝礼によって、しっかりと働く心に切り替える企業も多いと思います。倫理法人会においても、モーニングセミナーの前に世話役の方々が役員朝礼を行ない、参加者によりよい形でお迎えする意識作りをしたり、行事を行なう前に、その成功と無事を願って「始めの式」を執り、準備運営に当たるところもあるでしょう。それらの事柄は、目的を把握し、役割を確認し、情報を共有し、意識を統一して、各人が存分に持てる力を発揮するために行なわれます。人が寄り集まって、物事を進めていく時、このようにしっかりとしたスタートを切る事が成功につながることは、誰もが経験していることです。

一方で、個人として一日の始まりに取り組んでいることはあるでしょうか。倫理運動の創始者・丸山敏雄は、毎朝神前で誓詞を奉唱して、今日あることへの感謝を捧げました。一日の仕事に真心を込めていくことを誓い、倫理運動が進展して、世界がよりよくなっていくことを願っています。倫理法人会の経営者の中にも、毎朝しかるべき形で誓いを立てているという方が少なくありません。

経営者の場合、そのような姿勢が企業内に確実に波及していきます。例えば、どんなに素晴らしい経営理念を掲げても、経営者自身がそれとかけ離れた意識で取り組んでいては、理念は絵に描いた餅に墮するでしょう。人世のために貢献するというのが、企業理念の重要な要素の一つです。それを牽引する経営者が、その生き方に磨きをかけ、いかな



私心を払い 真の社会貢献に徹する

る時にもぶれることのないリーダーとしての中心軸を確立するために、朝の誓いは有効なものといえるでしょう。

さて、倫理法人会が主催するモーニングセミナーでは、最後に誓いの言葉を斉唱します。「今日一日 朗らかに 安らかに 喜んで進んで働きます」という誓いを、どのような思いで斉唱しているでしょうか。純粹倫理の実践の指針である、明朗・愛和・喜働が、斉唱しやすいリズムでまとめられています。この平易な言葉を、愚直に心を込めて斉唱すれば、そこに込められた深い意味を噛み締めることができるでしょう。

古来、日本人は人が発する言葉の持つ力を感じ、言葉と表現しました。伝達手段としての言語には、目に見えない力があると信じてきました。東日本大震災直後、日本人は海外から賞賛されるような底力を発揮しましたが、社会不安の増大や国力の低下に歯止めがかけられずにいます。その根底には、何のたけに生きるのかという、個々人の生きる指針の喪失があるでしょう。学校や家庭あるいは地域社会といった教育の場が、その力を低下させているといわれる現代において、その最後の砦は企業にほかなりません。指導者たる経営者がどのような生き方をしているのか、ということが日本の未来を左右します。

リーダーの要諦の一つは、私心を捨て去ることだといわれます。公器としての企業が社会に対して本当の貢献をし、繁栄していくために、経営者が毎朝の誓いによって、リーダーとしての器に磨きをかけていきましょう。

絵・今谷 鉄柱